

3

地区連合町内会とのかかわり

(1) 地区連合町内会とは

地区連合町内会（以下「地区連町」）は、4から50の単位町内会を一つの広域集団として組織しています。規模、事業運営などは地区により異なり、その範囲も地域的なつながりや小学校区を基本とするなど様々です。

現在、47の地区連合町内会（平成27年8月末現在で、都心部は30地区、農村部は大正9地区、川西8地区）が、地域の発展のために各町内会が連携しながら活動しています。（区域図は参考資料の23ページからを参照）

(2) 地区連合町内会の役割

町内会が会員の親睦と相互扶助を目的としていることに対して、地区連町は、町内会相互の連帯と融和を図り、よりよい地域づくりをするために組織されている広域的な任意組織といえます。

また、地区連町は、構成町内会の親睦と連帯意識のもとに、町内会だけではできない課題の解決に向けた地域づくりの中核をなす住民自治団体の機能と全市的共通課題を解決する市町連の実践推進機関の機能を併せ持っています。

昨今、子どもたちやお年寄りの安全安心対策や地域防災対策などは、単位町内会の範囲を超えており、地区連町の役割が重要となっています。

また、平成17年5月に実施した町内会実態調査では、少子高齢化の進展やコミュニティ意識の低下から、多くの町内会で加入世帯が減少しているほか、役員のみならず手不足などを挙げています。こうした対応には地区連町の新たな課題として、町内会の統合や分割なども視野に入れた広域的な取り組みも必要となっています。

(3) 目的別自主団体との関係

帯広市には、町内会の役員をはじめ、学校やPTA、専門的な活動を行う経験者などで組織される住民団体があります。

特に、町内会と深くかかわるものとしては、「交通安全推進委員連絡協議会」や「青少年育成者連絡協議会」、「防犯協会」、「町内会女性部連絡会」などがあります。その活動は地区連合町内会と同様の区域、あるいは小学校区域を基本としたものであり、様々な取り組みが行われています。

また、町内会をはじめ、地域で活動する組織が連携し、地域の課題解決に向けて主体的に考え取り組むための「地域連携会議」などによる新たな仕組みづくり、ネットワークづくりを進めています。



目的別自主団体（住民団体）の主な概要

市には町内会役員などが母体となって組織された次の住民団体などがあります。

① 帯広市青少年育成者連絡協議会＜昭和36年設立＞

- ・昭和35年に、「青少年健全育成は家庭や地域の手で市民ぐるみの運動を展開する」との考え方を受け、町内会に「青少年委員」を置き、翌年7月にはその委員を構成員とした「青少年委員連絡協議会」が設立しました。
- ・小学校下26地区に理事を置く本会は、「青少年育成者（地域指導者等）」を構成員に加え、平成11年に「青少年育成者連絡協議会」と改められました。

主な活動：十勝子ども雪合戦、青連協だよりの発行、ジュニアリーダー養成講座

② 帯広市防犯協会＜昭和37年設立＞

- ・昭和37年9月、「犯罪の防止には地域住民の連携が不可欠」として、帯広市内を7地区に分けた単位組織からなる帯広市防犯協会が設立されました。
- ・現在、「防犯意識の高揚と自主活動の推進などにより犯罪防止に寄与する」ことを目的に、27支部の役員が中心となって町内会の防犯委員などと連携をとった活動を行っています。

主な活動：防犯に関する活動＜啓発・広報活動、防犯パトロール・防犯指導など＞

③ 帯広市交通安全推進委員連絡協議会＜昭和43年設立＞

- ・昭和42年12月、市から町内会長に対し「交通安全推進委員による交通安全市民運動の考え方と進め方」が示され、市民意識と交通道德の高揚を図る自主的委員として「交通安全推進委員」が選任されました。
- ・翌年5月に、この委員をもって「交通安全推進委員連絡協議会」を設立し、現在は市内23支部で活動が行われています。

主な活動：交通安全に関する活動＜街頭指導・啓発・研修会・広報活動など＞



④ 帯広市町内会女性部連絡会＜昭和51年設立＞

- ・「町内会婦人部が相互に連携を密にし、婦人の地位と教養を高め、明るい家庭や住みよい地域社会づくりに貢献する」との考えで賛同者を募りました。
- ・昭和51年5月に、町内会連絡協議会（現在の市町連）の活動が進む中で「町内会婦人部連絡会（現在の町内会女性部連絡会）」が設立されました。

主な活動：会員相互の資質向上・研修交流

⑤ その他の住民団体等

- ・PTA連合会や老人クラブ連合会、体育指導員協議会、北海道民生委員児童委員連盟帯広支部など、様々な分野や目的をもって地域に根ざした活動を進めています。